

平成21年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 Tel0428-23-6859）

丘陵地の冬鳥の個体数変化

最近、温暖化の影響で冬鳥の数に影響が出ているのではないか、という話を聞きます。青梅市内の、大荷田や小曾木地区は冬鳥の越冬地としての条件がよく、冬になると多くの野鳥が集まります。こうした場所では冬鳥の数に変化があるのかどうか、少々気になります。そこで、この両地区の冬（2月）の記録を、過去のものと比較してみました。調査には、一定の条件により野鳥の個体数や種類数を記録するセンサス調査を用いました。調査地は、大荷田が大荷田川沿い、小曾木が小布市川沿いの地域で、どちらも雑木林や人家、畑が混在します。個体数は1時間当たりの出現個体数（羽/時間）に換算しました。とりあえず、概略の変化の傾向を知るために、個体数は全ての種類の合計値で比較してあります。狭義の渡り鳥としての冬鳥ではなく、地域に生息する冬の鳥という捉え方です。

◆大荷田

調査日	1991年02月02日	2007年02月04日	2008年02月08日
個体数	86.7	82.7	73.2
種類数	26	26	23

◆小曾木

調査日	1991年02月17日	2007年02月15日	2008年02月01日
個体数	108.2	52.6	64.9
種類数	19	19	16

※ 単位 個体数：羽/時間 種類数：羽

※ 種類数には種不明鳥は含まない。

※ センサス条件内の個体数、種類数

野鳥の個体数は、大荷田では、1991年に比べ、2007～08年はやや減少という変化です。それに比べ、小曾木では大きく減少しています。2007年は1991年の約1/2の値です。種類数については、大荷田の方が多いのですが、両地区とも過去と現在とでは、あまり変わりません。この比較からは、冬（2月）の野鳥の種類数は変わらないが、個体数は減少傾向にあるといえそうです。そして、減少の程度は場所によりかなり変わ

ります。

こうした変化が温暖化によるものだ、ということはこの比較からは即断できません。両地区の個体数の減少幅に、違いがありすぎるように思えます。もし個体数の減少が共通の原因によるものならば、減少率も似たようなものになりそうです。そして、細かく種類毎の個体数を比較すると、数の減少（変化）は狭義の冬鳥（ツグミ、カシラダカなど）に限らず、スズメやホオジロのような留鳥にもみられるからです。小曾木の場合、調査ルート沿いの休耕田の埋め立てが進み、越冬地の環境変化による減少も考えられます。冬鳥は減少傾向かもしれませんが、原因には様々な要素が絡んでいるように思えます。 (文責：桜岡幸治)